

# vivo

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ] vol.243

7

July 2021

特集

02

1964音風景

音を解放する

02 1964音風景  
04 INFORMATION

水戸芸術館  
ART TOWER MITO

Photo©石村和子

# 「1964音風景」～音を解放する～

## 片山杜秀氏(音楽評論家)インタビュー

聞き手:中村 晃

「1964音風景」公演の企画監修をお願いしている音楽評論家・政治思想史研究者の片山杜秀さんに、1964年当時の音楽創作についてお話をうかがいました。

—今回の公演は、前回東京オリンピック、パラリンピック競技大会の開催年である1964年の音楽創造をテーマにしてあります。

1964年といえば、当時のわが国の多くの作曲家たちが大きな関心をもっていたジョン・ケージ(1912-1992)が、1962年に引き続き来日しています。そして、吉田秀和水戸芸術館初代館長は、これら来日時の様子を「ケージ・ショック」と表現しました。ケージはどのようなショックを日本の作曲家や演奏家や聴衆たちに与えたのでしょうか？

西洋音楽の常識、近代人の当たり前を根底から覆した。そこに尽きると思えます。モーツァルトでもベートーヴェンでも、ストラヴィンスキーでもシェーンベルクでも、作曲家はおのれの理性も感性も直観も動員して、こうでなければならぬという音を選んで楽譜を書いてきた。演奏家はその楽譜をなるべく忠実に再現することに存在意義を見いだしてきた。聴衆も、作曲家が自らの意思で音を選んで構築した美のイメージとは何か、そのイメージを演奏家が如何に解釈して伝えてくれるのか、その2つを懸命に聴き取り、そこにこそ音楽の喜びがあると信じてきた。

ところがケージは、日本の仏教思想家、鈴木大拙の教えや、20世紀前半のヨーロッパの超現実主義やダダイズムの影響を受けつつ、1950年代のうちにかなり新しい発想に到達した。彼は、作曲家が自らの意思で美的に音を選んで「これが私の音楽だ!」とアピールすることに、芸術の傲慢、人間の奢りを見つけた。

ケージが鈴木大拙から学んだのは、こだわらないことだと思うのです。作曲家が音選びにこだわって、演奏家がそれを正確に演奏できるかにこだわって、聴衆が作曲家と演奏家のこだわりをきちんと理解できるかにこだわっていたら、要するにどンドン音楽が狭く堅苦しくなるではないですか。執着を捨てて自由にならないと人間の文明はどンドン窒息していってしまう。ケージが仕掛けたのは、窒息寸前の近代人の精神の開放的なリハビリテーションなのでしょう。たとえばある一定の時間、演奏者も聴衆も黙って何もしないでじっとして、そのとき空調の音でも、鳥の声でも、誰かの咳払いでも、たまたま聴こえたものに耳を傾けて音楽を感じてもいいじゃないか。オープン・マインドですね。あるいは五線譜にきちんと音符を書くにしても、その音の高さや長さや強さを作曲家が自分の意思で決めなくたっていいじゃないか。実際、ケージは易者のように筮竹(ぜいちく)で占って、ピアノ曲からオーケストラ曲まで作りました。

そうなる、もう何でもありみたいですが、やはり人間の文化の話ですから、何でもありにはならない。いくら自由でも無制限ということはない。文化はどこか制約がなければ成り立ちません。ケージによって硬直していた価値観を揺り動かされて、今までのこだわりから自由になってもいいのだとショックを受けたら、次には、ではどこまで自由になっていいのかという、ものすごい問いがのしかかってくるのです。今まで、こだわりの囲いや壁の中で、ある意味、安心して生きていた作曲家や演奏家や聴衆が、囲いや壁を急に外されて、さあ、あなたは何が出来るかなと問われて、呆然とする。「ケージ・ショック」とはそういうものではないでしょうか。

—1964年は、ケージの次の世代にあたるアメリカ人作曲家テリー・ライリー(1935-)が、ミニマル・ミュージックの先駆的な名作である〈インC〉を作曲した年でもあります。ミニマル・ミュージックとはどのような音楽なのでしょう。また、〈インC〉について少しお教えください。

ミニマル・ミュージックを直訳すると「最小限の音楽」でしょう。といっても、1秒や2秒で終わるような、時間が最小の音楽ではありません(笑)。「最小限の素材で、最大限と言っては言い過ぎだけれど、なるだけ長めの時間、もたせようとする音楽」とでも申しますか。たとえばシンセサイザーで単音や和音を鳴らしっぱなしにして引き延ばして、ちょっとした揺らぎとか、最小限の変化をつけていく要領で、長い時間もたせてゆけば、これはもうミニマル・ミュージックです。ライリーの仲間ラ・モンテ・ヤングという人が始めたミニマル・ミュージックはそっちの系統です。

しかし、ライリーがやりだしたのは、ひとつの音の引き延ばしではなくて、パターンの反復なんです。♪ドミドミドミとか、♪ドミソドミソドミとか、比較的シンプルな限られたパターンをなるべく少ない個数組み合わせ、それらを何度も繰り返して、なるべく長い時間続けるかたちでのミニマル・ミュージックですね。このライリー流の反復音楽が、ミニマル的と呼ばれる系統の音楽の主流を作り出したと考えて良いでしょう。

そんなライリーがおのれの方向を見定めた最初の傑作が〈インC〉です。題名にあるCとはド(ハ)の音のことです。ドの音をパルス状に♪ドドドドドド…と繰り返して、その上に♪ドミドミドミとか♪ミファソミファソミファソとか、単純なパターンを繰り返してゆく。極端に言うとそのだけの曲なのです。パターンは全部で53個

あって、演奏順も決まっているのですが、53個のそれぞれを何回繰り返すかはアンサンブルを構成するメンバーそれぞれの自由に委ねられています。10回にするか30回にするか、個々の勝手です。さらに言うと旋律の弾ける楽器ならどんな楽器でもいいし、奏者も何人居てもいいのです。10人の雅楽のアンサンブルでも100人の交響楽団でも出来る。繰り返しの回数が自由ですから、演奏時間も30分だったり1時間だったり、演奏次第で変わります。もちろん53のパターン全部を早めに弾き切ってしまうプレイヤーも居れば、遅れてやっている人が居てもいいわけです。

ここでのライリーはケージとは違って、自分の美的な意思で、ドの音を土台にすることも、53個の音型を作曲することも、しております。しかし、ご説明したような具合ですから、演奏者の裁量がとても大きい。聴く側も、作曲家の決めた音を演奏家がしっかり再現する様を味わうというよりも、ゲームの大まかな手順だけが決まっていてあとは何が起きるか読めない音楽に耳をそばだてて、響きの混沌の中に自分なりの楽しみを発見していかなければならない。ケージとはまた別の次元かもしれないけれど、ライリーでもやはり作曲家と演奏家と聴衆の関係は伝統的な西洋クラシック音楽のありようとはずいぶん異なるのです。

1960年代とは、学生運動でも何でも、トップが仕切って皆が言うことを聞くかたちの上意下達型の組織運営が嫌われた時代ですよ。分かりやすくはヒッピーとか。抑圧のないのがいい。クラシック音楽の世界でも、全部を楽譜にきちんと書いて、その通りに指揮者が合奏を厳格に統率するみたいな行き方は別のありようが希求されはじめた時代と言えるでしょう。ケージとライリーでは、出てくる音はだいぶ違うのですが、どちらも1960年代ならではの自由の風を率先して吹かせた作曲家であったという

ことでは素直に並べられるところがあると思います。

—当時の日本の作曲界は、ジョン・ケージの音楽思想の影響もあって、様々な実験的な試みが行われていました。それらの潮流について、今回演奏される湯浅譲二(1929-)、一柳慧(1933-)高橋悠治(1938-)各氏の作品に触れていただきながら、ご紹介いただけましたらと思います。

湯浅譲二の〈プロジェクトン・エセム プラスティック〉には生身の演奏者は居ません。ホワイト・ノイズで作られたテープ音楽です。テレビの放送が終わったあとで盛大に聴こえるシャーッというノイズがホワイト・ノイズですね。誰もが音楽からほど遠いと思ってきた雑音でしょう。そこに音楽を聴こうとした作品です。ケージやライリーに優るとも劣らない発想の転換ですね。

一柳慧は、ケージからもミニマル・ミュージックからも大きく影響されて、2つの流れの総合を1970年前後から今日に至るまで図ってきた作曲家とも呼べるでしょう。弦楽四重奏曲第1番はというと、これはまさに1964年の音楽です。五線譜があって音符も書いてあるのですが、五線譜の上下を逆転して弾いてもよいなど、演奏者の裁量の幅がとても大きい。演奏する度にかなりかたちが違って当たり前の自由な四重奏なのです。

高橋悠治の〈クロマモルフII〉は今回の曲目の中ではいちばんきちんと五線譜に書いてある音楽ということになるかもしれませんが、でも、作曲の仕方は、作曲家が美的な意思で音を選ぶのとは違う手続きが取られています。といっても、ケージの易ではなく、師匠のケセナキスのやり方に学んでの数学の確率論を応用した音の選択です。非常に音が散らかっております。その散らかり方に脱人間的というか、人間の美へのとらわれを超えた自由さを感じることができるかもしれません。

—最後に、今回のコンサートの聴きどころや楽しみ方について、お教えてください。

音楽には良い音楽と悪い音楽しかないとか誰かが言いました。作曲年代などにこだわらず、良い音楽だけ聴けばよい。そういう考え方もありましよう。けれど、良い音楽といってもいろいろあります。人間の美への執着、芸術家の主意的な思いを徹底させての音作りからいったん自由になったところにある、良い音楽というものもある。そう思います。そして、そういう方向を作曲家たちが追求していったひとつの大きな節目が1964年でした。その年に絞ってこそ、聴こえてくるものがあるのではないのでしょうか。

—ありがとうございました。

今回のコンサートでは、現代作品を演奏する楽団としてわが国随一存在であるアンサンブル・ノマドが出演します。また、演奏の合間に片山さんの楽しい解説も入ります。皆様のご来場をお待ちしております。



Ensemble Nomado ©Maki Takagi

#### ■公演情報

### 1964音風景

2021.7.11(日) 14:00

[全席指定]一般 ¥3,000/

U-25(25歳以下) ¥1,000

「アンサンブル・アンテルコンタンポラン演奏会」  
(8/27)チケットの割引有り

#### ●出演

アンサンブル・ノマド、磯部英彬(エレクトロニクス)、片山杜秀(企画監修・おはなし)

#### ●プログラム

湯浅譲二: ホワイト・ノイズによる〈プロジェクトン・エセムプラスチック〉

高橋悠治: クロマモルフII

ジョン・ケージ: 〈ピアノのための電子音楽〉より

一柳慧: 弦楽四重奏曲 第1番

テリー・ライリー: インC

# INFORMATION

※以下は6月3日現在の情報です。公演等に関する最新情報は当館ウェブサイトにてご確認ください。

## チケット・インフォメーション

《6.26(土)発売分》

■宮田 大 ミニ・コンサート  
8.13(金) 19:00

■アンサンブル・アンテルコンタンポラン演奏会  
8.27(金) 19:00

■所 香菜 ピアノ・リサイタル  
9.5(日) 15:00

## 6・7月の主な音楽イベント

### コンサートホールATM

#### ◆講座『ディスクとともに語る吉田秀和初代館長の思い出』

お話し: 大津良夫 (水戸芸術館副館長)

ゲスト: 堀 伝 (水戸室内管弦楽団楽団長)

【第一回】6.13(日) 14:00

戦後日本の音楽教育と小澤征爾、水戸室内管弦楽団

【第二回】7.4(日) 14:00

パリ、ウィーン、ミュンヘン～ヨーロッパの芸術都市～

料金【全席指定】 各回¥800

(※財団運営維持委員会および水戸芸術館メンバーズ: 各回¥500)

#### ◆1964 音風景

7.11(日) 14:00

料金【全席指定】 一般¥3,000、U-25(25歳以下)¥1,000

※「アンサンブル・アンテルコンタンポラン演奏会」のチケット割引あり。

### エントランスホール

#### ◆パイプオルガン ブロムナード・コンサート

(入場無料/要事前予約)

□6.19(土) 12:00~12:30/13:30~14:00 加藤慶子

□6.26(土) 11:00~11:30/12:30~13:00 尾崎麻衣子

□7.10(土) 12:00~12:30/13:30~14:00 中澤未帆

□7.31(土) 12:00~12:30 本田ひまわり

## 演劇・美術のイチオシ企画!

### ACM劇場



#### ◆新・未来サポートプロジェクト

ADACHIHOUSEラボvol.1

【目指せミュージカル水戸黄門?】

出演: 安達勇人 (歌手・俳優・声優)

加藤良輔 (俳優・歌手)

神田真紅 (講師)

ICHI (Lockingダンサー)

TAKU (HipHopダンサー)

塚原ゆうき (マジシャン)

7.31(土) 14:00/18:30、8/1(日) 14:00

料金【全席指定】 S席¥5,000、A席¥4,000

### 現代美術ギャラリー

#### ◆第52回水戸市芸術祭 美術展覧会第2期

6.23(水)~7.4(日)

【公演内容】書・写真・デザイン・インスタレーションの作品を紹介する、市民の方々による美術展覧会です。

【休館日】月曜日

【開館時間】9:30~18:00

※入場は17:30まで

【入場料】無料



美術展覧会第2期(2019)インスタレーション

## 茨城の名手・名歌手たち 第30回 出演者オーディション

2021.11.23(火・祝)に開催予定の演奏会に向けて出演者オーディションを行います。

【開催日】

8.7(土): 管楽器、打楽器(以上ソロ)、器楽アンサンブル(2人~5人)

8.8(日): 声楽

【申込受付期間】6.22(火)~7.6(火)[当日必着]

【資料請求方法】・当館ウェブサイトよりダウンロード

・当館エントランスホールチケットセンターにて直接入手

・84円切手を貼付した返信用封筒と、受験する楽器(編成)を書いた

メモを同封し、右記宛先まで郵送

※出場資格等、詳細は応募要項、またはウェブサイトをご覧ください。

【お問い合わせ】

水戸芸術館

音楽部門「茨城の名手・名歌手たち」係

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL.029-227-8118(担当: 鴻巣・篠田)



2021年6月8日発行(第243号)

編集: 水戸芸術館音楽部門 | 中村晃、関根哲也、高巢真樹、篠田大基、鴻巣俊博、高木春佳

発行: (公財)水戸市芸術振興財団 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8 Tel.029-227-8118(音楽部門)

Tel.029-231-8000(チケット予約センター 9:30~18:00・月曜休館) <https://www.arttowermito.or.jp/>

デザイン: K5 ART DESIGN OFFICE. 印刷製本: 山三印刷株式会社

1964年、経済成長と共に  
東京では屋上ビアガーデンが  
開店ラッシュ!  
50軒に達したらしいよ。



## ■編集後記

蒸し暑い日が多くなり、仕事終わりはもっぱらビールです。水戸の駅ビルには某大手クラフトビールのレストランがあるし、住宅街の中にもマイクロブルワリーが…。水戸が密かに「クラフトビール都市」になりつつあります。(鴻)

あずまきよこ「よつぱと!」がコミック15巻、連載18年にして、漫画の中の時間は半年も経っていないと知り驚愕。1話がだいたい1日にあたるペースとか…。ところで、四つ葉のクローバーを見つけるのがなぜか得意です。(篠)

4年半ぶりくらいにスマホを変えました。愛用してきた小さめの機種はもはやなく、大きくて重いけどやむなしと購入を決めた機種が今やほとんど最小クラスなんだそうで。老眼には少し優しくなりました。(て)

最近私の中で辛い物ブームが到来しているのですが、白い服を着ているときに限って辛い物を食べたくなくなる自分がだんだん嫌になってきます…。私服に白い服が圧倒的に多い事に気づきました。(春)

小さい頃にピアノを習った先生は声楽専門の方で、大きなイヤリングがトレードマーク。歌っている時が一番輝いているマダムでした。それから約四半世紀、久しぶりに弾くピアノが楽しい今日この頃。いつのまにか基礎を培ってくれていた先生に感謝。(樹)

第2次大戦後、芸術音楽の伝統に風穴を空けたジョン・ケージと西欧の伝統に依拠しつつ新しい音響を模索したビエール・ブーレース。2人は親交を結び、偶然性をめぐり決別した。この両者が核となる演奏会が、「1964音風景」と「アンサンブル・アンテルコンタンポラン」公演だ。(中)